

ジェンダーに関する意識調査 ～武生高校生の関心を高めるために何ができるのか～

武生高等学校探究文科3年

1.abstract

Our question is "Are Takefu High School students interested in the subject of gender?" Also, "What should we do to raise their interest in gender issues?" To reveal these questions, we carried out questionnaires for the second year students of our school and had a professional give a lecture. From the results of our questionnaires, we found that there were few critical opinions about gender. The trend of our grade is "recognize the existence of LGBTQ." Also, the way of raising their interest about gender was "To know." If they understand there are LGBTQ people around them, they will feel gender issues are closer to them.

2.要旨

武生高校生のジェンダーに関する知識や興味、特性を調べる。ジェンダーへの関心を高めるために何ができるのか考える。

3.はじめに

この研究は、武生高校生が自分たちに身近なところからジェンダーについて考え、ジェンダーにとってより良い社会、すなわち自身のセクシュアリティを発信することに引け目を感じない社会を築いていくことを目的として行う。現在は性的マイノリティが注目されているものの、配慮が足りないとされる。よって、本当に性的マイノリティのためになるのはどういうことかについて考えていく。

動機は、自分たちの興味のある分野について、他の人たちがどのような情報や意見を持っているのか気になったからである。

背景・現状として、日本政府は2017年3月、10年ごとに改定される学習指導要領にLGBTQに関する内容を加えないことを決めた。国としては義務教育課程でLGBTを扱わない方針であることが伺える。しかしながら、高校の家庭科の教科書や、中学校の道徳の教科書ではLGBTQについて記載されており、必須のレベルに達していないものの、LGBTQに関する教育に前向きではあるようだ。

また他国においては、フランスで同性パートナーシップの制度が整い、同性婚が合法化された。LGBTQは「科学」の生物領域でも取り上げられている。「女性、男性になること」という項目の中で、胎児の性決定の際、XX(男性)やXY(女性)など性染色体役割を説明し、そしてXXでも女性の染色体をもち、女性の外見を備えた男性がいることに触れ、性的なアイデンティティや性的指向についても解説している。一方アメリカでは、カルフォルニア州教育委員会が中学校までの教科書にLGBTQの歴史を含めることを認めた。ジョージア州にはLGBTのための学校、プライドスクールアトランタが設立された。LGBTを含めたセクシュアルマイノリティの生徒、家族、教育者に、安全で、楽しく学べる環境を提供することを目的としている。

このようなことから、日本はLGBTQの分野について前向きであるものの、他の先進国と比べると進んでいるとは言えない状況だ。

日本のジェンダーに関する現状を確認したところで、次にLGBTQについての予備知識について確認する。

まず、性的マイノリティを簡単に分類したものがLGBTQという考え方である。Lはレズである。身体的な性別は女性で性自認も女性、性的指向も女性である人のことを指す。Gはゲイである。身体的な性別は男性で性自認も男性、性的指向も男性である人のことを指す。Bはバイセクシュアルである。自身の身体的な性別や性自認に関わらず、女性も男性も性的指向である人のことを指す。Tはトランスジェンダーである。身体的な性別と性自認が一致していない人のことを指す。Qはクエスチョニングである。自身の性自認や性的指向が定まっていない、または意図的に定めていない人のことを指す。基本的な考え方は上記の通りだが、他にも様々なセクシャリティが存在する。例えばその一つに、パンセクシュアルというセクシャリティがある。自身の身体的な性別や性自認に関わらず、男性も女性も、性的マイノリティの人々も性的指向である人のことを指す。バイセクシュアルは性的指向が男女であるが、それ以上に幅広い性的指向を持つ。他にもインターセックスやアセクシュアルなど、本当に多種にわたるセクシャリティが存在している。ゆえに、「ジェンダーはグラデーション」と言われており、一つに定める必要はな

4.実験方法

まず、LGBTQについての活動をしている団体について調べる。団体名や活動内容、活動頻度などを調査し、講演会をしてもらえそうなところを探す。

次に、各団体のイベントを参考にしつつアンケートを作成する。令和3年度武生高校2年生を対象とした、ジェンダーに関する知識量や関心の度合いを調べるためのものである。回答者のセクシャリティ(体の性別である身体的性、自分で認識している性別である性自認、恋愛感情が向く性別である性的指向、自分が表現したい性別である性表現)の調査に加え、イエス・ノークエスチョンを8問、自由記述の質問を12問行う。

最後に、アンケート結果を分析して新たに浮かんだ疑問を解決するために、LGBTQについて活動している方にお話を聞く。以下の【資料1】は、実際に私たちが作成したアンケートである。

<p>ジェンダーについてのアンケート</p> <p>私たちは「人文生活探究」における課題研究でジェンダーやLGBTQの分野に打ち込んでいます。そこで「武高生のジェンダーへの関心」に関する調査のために、多くの質問がありますが、答えていただけると嬉しいです。ご協力よろしくお願ひします。</p> <p>初めに、あなた自身の性別に一番近いものを答えるための質問を載せてください。</p> <p>・身体的性 (男性・女性)</p> <p>・性自認 (男性・女性・分からない)</p> <p>・性的指向 (両性・両性・異性・なし・分からない)</p> <p>・性表現 (男性・女性・分からない)</p> <p>※性別や性自認は、身体的性別、性的指向とは関係ありません。※性別や性自認は、性的指向とは関係ありません。</p> <p>【設問1】 今までに、ジェンダーについての新聞記事やニュースを見たことがありますか？ (はい・いいえ)</p> <p>【設問2】 どの程度ジェンダーに興味がありますか？ (とてもある・少しある・ない)</p> <p>【設問3】 LGBTQの意味を言えますか？ (すべて言える・わからないものがある・一つも言えない)</p> <p>【設問4】 令和3年3月に北海道で同性のパートナーとの内縁関係を認めないのは違憲という判決が初めて出た裁判を知っていますか？ (はい・いいえ)</p> <p>【設問5】 今までLGBTQの方に出会ったことがありますか？ (はい・いいえ)</p>	<p>【設問6】 設問5で「はい」と答えた方にお聞きします。 どのようにコミュニケーションされましたか？</p> <p>【設問7】 ジェンダーについて知っていることを何でも書いてください。</p> <p>【設問8】 ジェンダーについて個人的に何か考えたことはありますか？</p> <p>【設問9】 周囲の方からLGBTQについての考えを聞いたことはありますか？ (肯定的な意見、否定的な意見、など)</p> <p>【設問10】 LGBTQに対する偏見をなくすためにはどうすればいいと思いますか？</p>
	<div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>

【設問11】
LGBTQの方々のために何ができると思いますか？

【設問12】
もし、自分の家族にLGBTQの方がいたらどうしますか？

【設問13】
もし自分が同性から告白されたらどうしますか？

【設問14】
生物学的に女性または男性の方が使うトイレ（公共の場所のもの）を、「心が女性、身体が男性」または「心が男性、身体が女性」の方が使うことをどう思いますか？
(賛成・反対)

【設問15】
LGBTQについて世代格差(年代によって考え方に違いがあること)を感じたことはありますか？
(はい・いいえ)

【設問16】 設問15で「はい」と答えた方にお聞きします。
どのような場面で、どのような格差を感じましたか？

【設問17】
LGBTQについての活動があったら参加してみたいと思いますか？
(はい・いいえ)

【設問18】 設問17で「はい」と答えた方にお聞きします。
どのような活動に参加してみたいですか？
(例: 講演を聞きたい、LGBTQの方々と実際に交流したいなど)

【設問19】
普段自分がジェンダー関係で気になっていることはありますか？
(はい・いいえ)

【設問20】 設問19で「はい」と答えた方にお聞きします。
それをどうしてほしい、どうしたいなどの要望はありますか？

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

【資料1】ジェンダーについてのアンケート

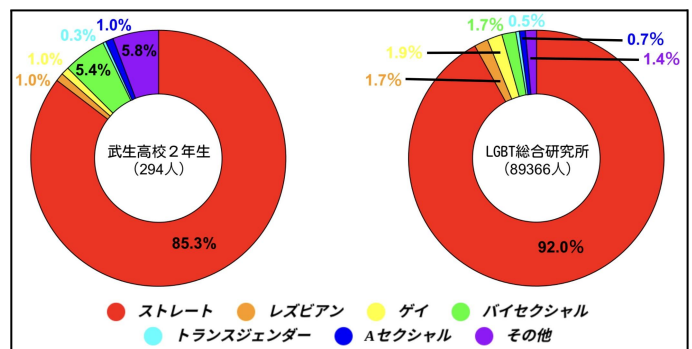
5.結果

これらのアンケートから言えることが主に3つある。

1つ目は、ジェンダーに関する誤認が多いことである。そもそも、「ジェンダー」とは生物学的な性別に対して社会的・文化的な性別のことを指す。世の中の男性と女性の違いにより生まれる性別である。この「ジェンダー」を「性的マイノリティの人々」と認識している人が多く存在した。他にも、「ジェンダー」と聞いてレズやゲイだけが思い浮かぶ人や、多種にわたるセクシャリティの一部のみを思いつく人もいた。

2つ目は、全国と比べて武生高校2年生のバイセクシュアルの割合が高いということである。(【資料2】参照) LGBT総合研究所の調査によると、全国の20～59歳の100,000名(内有効回答数89,366名)を対象に行ったスクリーニング調査の結果、バイセクシュアルの割合は全体の1.74%であった。一方2年生では、本人が自身をバイセクシュアルと認識しているかどうかは不明だが、分類していくと結果バイセクシュアルに分類される人が16人、全体の5.4%存在した。これは研究所の結果よりもバイセクシュアルが多いことを示している。

さらに、性的指向の項目で「わからない」と答えた人も17人、全体の5.8%存在した。これらの人は性的指向が同性か異性かわからない、つまりどちらの性別でも好きになる可能性



【資料2】ご自身のセクシャリティについて

のある人々であると言える。

3つ目はジェンダーに対し批判的な意見が少なかったことである。あからさまにジェンダーマイノリティを批判するような意見はほとんど見られなかった。

6.考察

結果の2つ目より、LGBT総合研究所の調査結果と比べると、武生高校2年生は性的マイノリティに分類される人の割合が多く、さらに様々な種類のジェンダーの人が存在することからジェンダーの多様性があると言える。ジェンダーマイノリティの人々は現在、左利きの人やAB型の人と同じ程度の割合で存在すると言われており、LGBTQであることは珍しくないことが伺える。

結果の3つ目より、最初、私たちは武生高校2年生はジェンダーに寛容なのではないかと考えた。しかし、アンケートの自由記述の間に空白での回答も多々あったことから、ジェンダーに寛容なのではなく、ジェンダーに無関心なのではないかという仮説を立てた。そこで新たに「性的マイノリティな人々について、批判する気はなく、無関心である」という人々へはどうアプローチしていくべきか、という問いを立て、LGBTQについて活動している方々にお話を伺った。

その結果、この問いに関して「無関心なのではなく、知らないから自分事として捉えられないだけではないか」という回答を頂いた。

このことから、アプローチしていくための一つの方法に「知ること」が挙げられる。例えば無関心である理由として、実際にLGBTQである人たちのことを知らないため、今まで深く考えたことがなく、自分には関係の無い、遠い世界の話だと考えてしまうことが挙げられる。しかし実際にLGBTQの人と対話をしてみて、その人の人となりなどを知っていく上で、今までのセクシャルマイノリティの人たちへの偏見や認識が変化して、変に特別視して誤解していた、と気づくこともあるのだ。

「男の子だから」「女の子だから」という言葉は誰も耳にしたことがあるだろう。これらの言葉を発する人々は「男とはこうあるべき」「女とはこうあるべき」という固定観念、つまり偏見を持っているのだ。

LGBTQについても、そのような偏見のひとつと考えればより自分事として捉えられるのではないか。多様性が尊重される現代社会において、「男の子らしさ」「女の子らしさ」を押し付け求めることは前時代的で推奨されるものではない。それと同じように、「LGBTQであることは特別だ」と意識するのは推奨されるものではないのだ。LGBTQは特別なことでは決してなく、「その子の個性」なのだ。故に、先程考察で「ジェンダーの多様性がある」と述べたが、様々な種類のジェンダーがあることは特筆して言うことではなく、1つの学年に様々な性格の子がいるのと同じようなことで、それと同等の意味の「多様性」なのだ。

7.結論

武生高校2年生のジェンダーについての意識は、当事者かそうでないかに関わらず、批判的なものはあまり見受けられなかった。全体として「性的マイノリティの存在を受け入れる」という傾向がある。ジェンダーへの関心を高める方法としては「知ること」が挙げられる。

8.今後の課題

武生高校2年生の現状は「ジェンダーについて理解がある」という社会へ一歩を踏み出しているものであり、これからの社会に望ましい姿と言うことが出来るだろう。しかし、現状はLGBTQを特別視しているものだからこそ、「知ること」により「普通のこと」だと認識していき、自分事にしていくこと

が更に関心を高めていくための1つの手段である。そうしていくことで自身のセクシュアリティを発信することに引け目を感じない、ジェンダーにとってより良い社会を築いていくことができるだろう。これを実現させることが当面の課題である。

9.参考文献

Rickey,2021,「何が違う？LGBTの教育事情【日本と海外を比較】」, JobRainbowMAGAZINE,2021年7月14日,(2021年12月15日取得, <https://jobrainbow.jp/magazine/lgbtstudy>).

株式会社 博報堂DYホールディングス

株式会社LGBT総合研究所,2016,「博報堂DYグループの株式会社 LGBT 総合研究所、6月1日からのサービス開始にあたり LGBT をはじめとするセクシャルマイノリティの意識調査を実施 ―セクシャルマイノリティに該当する人は約 8.0%。LGBT に該当する人は約 5.9%― ―消費支出、旅行・ペット関連・芸術鑑賞などで LGBT 層に高い傾向―」,2016年6月1日,(2021年11月7日取得 <https://www.hakuhodo.co.jp/uploads/2016/05/HDYnews0601.pdf><https://www.hakuhodo.co.jp/uploads/2016/05/HDYnews0601.pdf>)

(協力者)

仁愛大学 織田暁子准教授

鯖江市男女共同参画社会推進拠点施設夢みらい館・さばえ 川口サマンサ様, 姫野貴子様